

藤環協だより

VOL 62

発行日 2026年3月10日
編集発行 藤枝市環境保全協議会
発行責任者 広報事業部 磯部 敏輝(株テクノフローワン)
事務局 藤枝市環境水道部生活環境課内
〒426-0026 藤枝市岡出山2丁目15-25
Tel 054-643-3681(直通) Fax 054-631-9083

藤枝市環境保全協議会 広報事業部



写真・文章：(株)カナック 岡谷 裕子

用宗漁港から撮影した2026年元日の初日の出。
昨年は猛暑や豪雨の頻発、生態系への影響など、環境の変化をこれまで以上に身近に感じる一年となりました。
昇る朝日が新たな始まりを照らすように、自然と向き合い、環境を大切にする想いを共有しながら、
次の世代へとつなげる実りある一年となることを願います。

目次

令和7年度 藤環協講演会 ……………	2	藤環協30周年記念植樹を行いました ……………	5
令和7年度 藤環協視察研修 ……………	3	「もったいない」市民のつどいを開催しました ……………	5
地域貢献事業～瀬戸川河川清掃～ ……………	3	クロスワードパズル ……………	6
私の趣味 ……………	4	編集後記 ……………	6
私の一言 ……………	4		



R70

この冊子は古紙配合率70%の再生紙を使用しています。

※この印刷物は大豆油インキを使用しています。

令和7年度

藤環協講演会

今年度の講演会は2025年1月21日に2部構成で行われました。第1部では、「静岡県における気候変動影響と事業者の適応について」と題して、静岡県環境衛生科学研究所 環境科学部【静岡県気候変動適応センター】の神谷貴文様による講演が行われました。

静岡県気候変動適応センターは、気候変動適応法(平成30年6月制定)に基づき設置された機関で、地域における気候変動適応の情報収集・提供を行い以下の点を結論付けています。

- ▶ 既に気候変動は進行しており、熱中症搬送者数・短時間強雨による水害等が増加している。
- ▶ 気候変動対策は「緩和」と「適応」の両輪で進めていく必要がある。
- ▶ 将来の気候予測は対策の程度(対策シナリオ)により異なってくるが、1番厳しいシナリオ(持続可能な発展の下で、気温上昇を2℃未満に抑えるシナリオ)でも気温の上昇は避けられない。
- ▶ 気候変動の影響は企業活動にも及んでおり、事業の特性に即した対応策が必要。
- ▶ 一方で気候変動による影響をリスクだけでなく、「機会」としてとらえることも重要で機会を活用した適応ビジネスが展開されている。

第2部では、気候変動による影響をリスクだけでなく「機会」としてとらえることについての具体例を「藤枝型カーボンクレジットの概要」と題して、静銀経営コンサルティング株式会社 堀慶彦様に解説いただきました。藤枝型カーボンクレジットはJ-クレジット制度に基づき、森林によるCO₂吸収量をクレジットとして販売し、地元の東海ガスがその排出枠を買取り、カーボンオフセット(CO₂排出量相殺)エネルギーとして販売することで資金循環を促します。その資金により適切な森林の維持・管理を行う事で環境と経済を両立させ、藤枝市内を中心に脱炭素化を推進する取組みになります。CO₂吸収量50t単位で販売し、その金額は75万円になります。

今まで私たちは温室効果ガスの排出を抑制する緩和策ばかり実施していましたが、厳しい緩和策でも気温上昇が避けられない現実がある以上、これからは現在および将来の気候変動に対処する適応策が今重要になってくると認識できた大変有意義な講演でありました。

(株)静環検査センター 環境営業課 古口 尚



▲ 静岡県環境衛生科学研究所 環境科学部
静岡県気候変動適応センター 神谷貴文様



▲ 静銀経営コンサルティング株式会社 堀慶彦様

令和7年度★藤環協視察研修

視察年月日：2025年10月17日

視察先：いすゞ自動車株式会社 ① いすゞプラザ ② 藤沢工場

いすゞ自動車株式会社は1962年に操業開始。視察した藤沢工場では、主に大型/中型/小型トラックの組み立てを行い、研究所も併設しております。

環境への取り組みについては、生物多様性活動や自家発電システムを行い、環境負荷軽減につながる取り組みを進めているとのことでした。中でも、産業廃棄物については108種の分別をしていること、リサイクル品としてパレットやPPバンドの再生化に取り組んでいること、水資源なども雨水を利用し環境に配慮しているとのことでした。

品質面では品質の4本柱を掲げており、高品質なものづくりを徹底している様子が感じられました。

いすゞプラザも歴代の車種が展示されており自動車の歴史となつかしさを感じられる場所となっていました。安全・品質・環境の取り組みに参考になる視察研修となりました。 住友林業クレスト(株)静岡工場 製造部 太田勝己



地域貢献事業 ～瀬戸川河川清掃～

2025年10月24日、瀬戸川河川敷で実施しました「第21回清掃美化活動」に会員の皆さんと一緒に参加しました。

作業範囲はふれあい橋から瀬戸川橋までの西岸約3haで、天候は一時小雨がありましたが活動中は持ちこたえ、快適な気候の中で実施できました。多くの参加者が集まり、散策しながら清掃を進める雰囲気は長閑で心地よいものでした。個人的な気づきとして、歩道には手すりが整備されている箇所があり、安全性への配慮が感じられました。

回収したごみは40Lコンテナ約4個分で、空き缶やペットボトル、スチロールなどのほか、ゴルフボール2個やバーベキュー用金網といった予想外のものも含まれていました。全員が怪我なく終了でき、地域環境の美化を再認識する貴重な機会となりました。

今後も継続して参加し、より良い環境づくりに貢献してまいりたいと考えます。

住友ベークライト(株)静岡工場 環境管理部 中道 聖



私の趣味

氏名: 横馬 誠

所属: セイエン商事(株)木内アスコン藤枝工場



私の趣味は野球観戦です。

2023年のWBCで日本が優勝したのをきっかけに野球を観るようになり、今では毎日欠かさず試合結果や選手成績をチェックするほど、生活に欠かせないものとなっています。年に5回ほど球場に足を運びますが、現地でしか味わえないファンや応援団の雰囲気にもいつも圧倒され、胸が熱くなります。

野球観戦が高じて、最近では草野球も始めました。初心者として練習生から参加し、経験者の方々から日々アドバイスをいただいています。練習を重ねるたびに自身の成長を実感でき、充実した時間を過ごせています。まだ試合でヒットを打っていませんが、まずは記念すべき1本を目標に、これからも練習に励んでいきたいです。



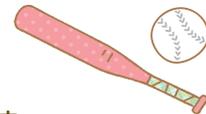
(ペルーナドームにて)



私の一言

氏名: 石田 富雄

所属(株)バスクリン(現在はアース製薬(株)に統合)



富士市にある富士川緑地公園グラウンドからは、美しい富士山を望むことができます。

例年1月3日から5日までの3日間、この場所で「栄光杯」というソフトボール大会が開催されています。県内の高校はもとより、北は北海道、西は兵庫県など全国から計24の女子チームが集まり、富士山を背に熱戦を繰り広げます。多くのチームにとって、夏のインターハイに向けた新年のスタートがこの大会から始まります。参加チームには日本代表選手を擁するチームや全国大会の常連校も多く、毎年非常にハイレベルな試合が展開されます。

私は10年ほど前から、年始の時期に審判として協力させていただいております。かつては早朝のグラウンドに霜柱が立ち、凍えるような寒さの中で試合を行っていましたが、近年は温暖化の影響か、穏やかな気候の中で気持ちよく試合ができるようになりました。

雪を冠した美しい富士山をこれからも変わらずに見られることを、心から願っております。



藤環協30周年記念植樹を行いました

藤枝市環境保全協議会創立30周年を記念して、蓮華寺池公園にジンダイアケボノザクラの植樹を行いました。ジンダイアケボノザクラは日本花の会が推奨する樹勢が強健で鑑賞性が高い品種であり、来年春に花を咲かせて蓮華寺池を訪れた皆さんの目を楽しませてくれることが期待されます。当日は、会長、副会長、社会活動事業部が参加し、植樹の土入れを行いました。

30周年を記念して、正解者の中から抽選で5名の方にQ U Oカード1,000円分が当たるクイズを開催します。

Q. 今回植樹したジンダイアケボノザクラの看板に記載されているキャッチフレーズは？

● 応募方法：① 専用の応募用紙にキャッチフレーズが分かる看板の写真を添付し、各事業所の担当者に提出

② 藤枝市生活環境課(kankyo@city.fujieda.shizuoka.jp)まで、必ずメール本文に事業所名と部署名、名前を明記し、キャッチフレーズが分かる看板の写真を電子メールにて提出。● 正解発表：藤環協だより63号に掲載します。

● 締め切り日：令和8年3月31日(火) ※ 当選者の発表は、記念品の発送をもってかえさせていただきます。



「もったいない」市民のつどいを開催しました

本市では、12月を「もったいない」推進月間」と位置付け、市民一人一人が環境行動を実践するきっかけづくりを進めています。その一環として、12月6日、BiVi藤枝において「もったいない」市民のつどいを開催しました。

当日は、小学4年生を対象とした環境ポスターコンクールの表彰式、次世代環境リーダー育成研修の報告会、藤枝北高校の生徒による研究発表などを行いました。

次世代環境リーダー育成研修の報告では、参加した高校生から、ハワイ州での現地高校生との交流や海岸清掃活動、地産地消の取組を通じて学んだ環境意識の大切さが発表され、「研修で学んだことを活かし、仲間と共に環境問題に取り組んでいきたい」といった感想が聞かれました。

また、藤枝北高校の生徒による「バイオマス資源活用プロジェクト」の研究発表では、農場残渣を活用した元肥づくりや、剪定材から作られたポリポットの研究など、地域の未利用資源を活かした実践的な取組が紹介されました。

本市では、今後も人材育成と施設整備の両面から、持続可能なまちづくりを進めていきます。(藤枝市 環境政策課)



環境ポスターコンクール表彰式の様子



次世代環境リーダー育成研修報告会の様子

